
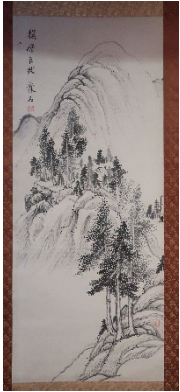


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】								
・ I-1-(1)-①-1) (東京国立博物館) ア ・ I-1-(1)-①-2) (4館共通) ア								
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長 沖松健次郎			
【実績・成果】								
(東京国立博物館) ア								
・ 購入件数1件、内訳：染織1件、決算額：80,000千円								
・ 4年度は「重要文化財 小袖染分繪子地小手毬松楓模様」を購入した。当館には本品と同時期のいわゆる「慶長小袖」と称される江戸時代前期の地無小袖の完品が2例所蔵されるが、いずれも「慶長小袖」の典型例とされる紅・黒紅・白の複雑な抽象模様の染分ではなく、紅色の入っていない作例である。典型例は、本品以外には日本国内に2例(松坂屋コレクション、文化庁、いずれも重要文化財)しかなく、完全な小袖形として伝存する3例のうちの1例を加えられた意義は大きい。								
								
【購入】小袖染分繪子地小手毬松楓模様								
(4館共通) ア								
新規寄贈品件数136件								
内訳 絵画1件、書跡3件、漆工2件、染織111件、考古1件、東洋絵画1件、東洋書跡7件、東洋彫刻2件、東洋陶磁2件、東洋染織2件、東洋考古1件、東洋民族3件								
・ 寄贈品のうち、染織分野において、重要無形文化財保持者(人間国宝)の平田郷陽氏作の人形を計58件、東京における友禅染の資料を計47件当館の所蔵品として受け入れた。								
新規寄託品件数42件								
・ 寄託品は新規に42件受け入れた。								
・ 返却25件のうち、9件(内訳 絵画1件、書跡2件、漆工1件、考古1件、東洋書跡3件、東洋染織1件)は寄贈品として受理した。								
								
【寄贈】木影人形 宴の花								
【補足事項】								
・ 4年度に購入、新規寄贈、新規寄託した作品については、5年度に新収品展にて公開する予定である。								
【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
所蔵品件数	120,812件	-	-		119,064	119,871	119,942	120,073
うち国宝	89件	-	-		89	89	89	89
うち重要文化財	649件	-	-		644	646	648	648
収集件数	741件	-	-		1,606	807	71	131
うち購入件数	1件	-	-		31	11	1	8
うち寄贈件数	136件	-	-		72	28	52	81
うち編入件数	604件	-	-		1,503	768	18	42
寄託品数	2,668件	-	-		3,130	2,591	2,651	2,651
うち新規寄託品件数	42件	-	-		45	29	69	30
文化財購入費	88,000千円	-	-	146,840	279,200	200,000	570,000	
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】							
評定：A	4年度において購入は1点のみではあったが、国内に3例しかない、小袖としての形態を完全にとどめるいわゆる「慶長小袖」の典型例のうちの1件を当館所蔵品とすることができた。 寄贈については、3年度に比べて多くの件数の寄贈を受け入れることができた。特に染織分野においては、今まで1件も所蔵が無かった重要無形文化財保持者(人間国宝)の平田郷陽氏の作品を計58件、東京における友禅染の歴史をたどる上で貴重な作例47件の寄贈を受け入れることができ、4年度において当館のコレクションの充実が大きく図られたとともに、今後の展示活用においても非常に大きな成果であったと考えられる。 よって、当初の計画を大きく上回る成果を上げることができたといえ、A評価が妥当であると考えられる。							
【中期計画記載事項】								
1) 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
2) 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。 また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】							
評定：B	中期計画の2年目として、着実に各分野で情報を広く収集し、展示活用が大いに見込まれる作品を受け入れることができた。 特に寄贈については、各分野の収集方針に基づいて3年度よりも多くの作品を受け入れることができた。 以上の実績から、中期計画を順調に遂行できているといえる。5年度以降も文化財の更なる収集に努めていきたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】								
・ I-(1)-①-1) (京都国立博物館) ア ・ I-(1)-①-2) (4館共通) ア								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 羽田聡					
【実績・成果】								
I-(1)-①-1) (京都国立博物館) ア ・ 購入件数 8件 内訳：絵画2件、金工1件、漆工5件 決算額 74,000,000円 ・ 4年度は、「年中行事絵巻模本」、「京都名所六景図(稲荷山図) 池大雅筆」、「黒漆太刀」、「野馬丸紋散箔絵螺鈿書筆筒」、「蓬萊花見図蒔絵手箱」、「田植蒔絵香盆」、「桜花卍文蒔絵螺鈿平棗」を購入した。								
I-(1)-①-2) (4館共通) ア ・ 寄贈 新規寄贈品件数 239件 内訳：絵画121件、書跡108件、金工3件、陶磁1件、漆工3件、染織1件、歴史資料2件 ・ 寄託 新規寄託品件数 74件 内訳：絵画35件、書跡1件、彫刻2件、金工7件、陶磁12件、漆工16件、考古1件								
【補足事項】								
I-(1)-①-1) (京都国立博物館) ア (購入)								
								
黒漆太刀			京都名所六景図(稲荷山図) 池大雅筆					
【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評価	経年 変化	30	元	2	3
所蔵品件数	8,526件	-	-		8,075	8,130	8,150	8,279
うち国宝	29件	-	-		29	29	29	29
うち重要文化財	200件	-	-		196	200	200	200
収集件数	247件	-	-		98	55	20	129
うち購入件数	8件	-	-		12	24	9	12
うち寄贈件数	239件	-	-		86	31	11	117
うち編入件数	0件	-	-		0	0	0	0
寄託品件数	6,587件	-	-		6,434	6,520	6,547	6,562
うち新規寄託品件数	74件	-	-		232	149	43	95
文化財購入費	74,000千円	-	-	106,340	383,800	41,716	299,953	
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 入館者数がコロナ禍以前の水準に戻っていないことに加え、光熱水費の高騰などの影響も受け厳しい財政状況の下、日本を代表する文人画家である池大雅の筆による京都の景観図や、南蛮漆器など日本と海外との交流を示す作品など、館にとって大変意義のある作品を収集方針に沿って効率的に購入、収集することができたため、Aと評価する。						
【中期計画記載事項】 1) 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 2) 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 コロナ禍の影響により、文化財購入に多額の予算を配分しづらい状況が続いているが、多数の寄贈品、少ない予算の有効的活用を通して、良質な収蔵品を順調に収集できているため、Bと評価する。 今後も、様々な手段を講じて、研究ならびに展示に寄与するところの大きい文化財の収集に努める。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】								
・ I-1-(1)-①-1) (奈良国立博物館) ア ・ I-1-(1)-①-2) (4館共通) ア								
担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長 吉澤 悟					
【実績・成果】 (奈良国立博物館)								
ア 以下12件の文化財を購入した。								
・ 彫刻 3件 木造普賢菩薩坐像 1軀、木造不動明王および二童子立像 3軀、木造天部立像 1軀								
・ 絵画 1件 春日吒枳尼天曼荼羅 1幅								
・ 書跡 1件 三品弟子経(中聖武) 1巻								
・ 工芸 6件 六器 1口、金銅火焰宝珠形舍利容器 1基、綾張竹華籠 1枚、白地唐花文甃断片 1枚、経帙 1枚、刺繍阿弥陀三尊来迎図 1幅								
・ 考古 1件 蓮華文方形軒瓦(伝南滋賀廃寺出土) 1点								
(4館共通)								
ア 寄贈を受けた文化財は以下の5件である。								
・ 彫刻 2件：木造菩薩立像 1軀、木造阿弥陀如来立像 1軀								
・ 工芸 2件：百万塔(付属 陀羅尼経) 1基(付属1巻)、花甃 模造(文様再現見本) 4枚								
・ 考古 1件：施釉均整唐草文軒瓦 1点								
寄託を受け入れたのは以下の4件である。								
・ 彫刻 4件：重要美術品 木心乾漆造釈迦如来坐像 1軀(東慶寺)、木造如来立像 1軀(個人)、重要文化財 木造十一面観音立像 1軀(霊山寺)、重要文化財 木造毘沙門天立像 1軀(東光院)								
【補足事項】								
・ 中期計画に則り、国民の共有財産に相応しい仏教美術作品及び奈良にゆかりのある作品を収集した。特に4年度は彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の全部門に渡りバランス良く作品を収集することができた。中でも、かつて奈良県吉野櫻本坊に安置されていたことが古写真から判明した木造普賢菩薩坐像、木造不動明王及び二童子立像、木造天部立像の購入は、当館の研究を大きく前進させ、展示での活用が期待されるものである。この他、南都絵所の作と推測され、春日信仰と吒枳尼天が融合した珍しい図様をもつ春日吒枳尼天曼荼羅、遺存状態の良好な神護寺伝来とされる経帙、完存する三品弟子経などは稀少性が高く、館蔵品を一層充実させることができた。								
・ 彫刻部門で寄贈を受けた木造菩薩立像は、明治時代の興福寺廃寺・再興の後に北円堂から寺外に出たもので、「興福寺千体仏」と呼ばれる仏像群の1軀である。平安時代作という作品の評価に加え、伝来の経緯も考えた時、文化財の保存や継承の役割を伝える上でも大きな意義がある。当館では寄託品の千体仏や写真資料のデータが蓄積されており、本品も含んだ体系的な研究が期待される。工芸部門で寄贈を受けた花甃模造は、正倉院宝物の部分的模造であり、例年正倉院展を開催している当館において、様々な形で展示・研究への活用が期待される。								
								
木造菩薩立像 (寄贈)								
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評価	経年変化	30	元	2	3
収蔵品件数	1,947件	-	-		1,908	1,911	1,929	1,930
うち国宝	13件	-	-		13	13	13	13
うち重要文化財	114件	-	-		113	114	114	114
収集件数	17件	-	-		15	3	18	1
うち購入件数	12件	-	-		6	3	10	0
うち寄贈件数	5件	-	-		9	0	8	0
うち編入件数	0件	-	-		0	0	0	1
寄託品件数	1,937件	-	-		1,974	1,974	1,988	1,956
うち新規寄託品件数	4件	-	-		18	8	26	7
文化財購入費(千円)	190,500千円	-	-		101,564	100,440	284,500	0
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 仏教美術作品や、奈良にゆかりのある重要な作品を、各分野にわたってバランス良く、数多く収集することができた。寄贈・寄託においては、いずれの部門も当館での展示への活用が期待される文化財を受け入れることが出来たため、計画を着実に遂行できた。							
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた所蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度は、仏教美術及び奈良に関わりのある美術品、考古資料、歴史資料を多数購入し、寄贈、寄託についても重要な作品を受け入れることができた。研究の積み重ねを経て購入に至った作品もあり、当館の研究や展示と有機的に結びついた作品収集が実施できている。寄贈・寄託においては、当館の柱である仏教美術作品、考古資料、さらに正倉院に関連する作品の受け入れを行い、管理する収蔵品を充実させることができ、計画を着実に実行できている。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等								
【年度計画】									
・ I-1-(1)-①-1) (九州国立博物館) ア ・ I-1-(1)-①-2) (4館共通) ア									
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 白井克也				
【実績・成果】									
(九州国立博物館)									
ア 35件を購入した。(内訳：絵画2件、陶磁2件、考古28件、歴史資料3件)									
絵画分野では、南宋時代の正統的な作風を持つ稀少な「宝冠阿弥陀如来像」を購入したほか、歴史資料分野では、近年注目を集める安南国(ベトナム)に関わる新出の文書「安南国清王鄭樞令旨」を収集した。いずれも学術的な価値が高く、後者については今後、重要文化財指定の可能性も考えられるなど、当館がテーマとして掲げる文化交流を語るうえで重要な作例である。陶磁分野では、九州を代表する窯の一つである高取焼の茶入及び茶碗を購入し、地元福岡ゆかりの陶磁の優品を収集した。									
(4館共通)									
ア 56件の新規寄贈、77件の新規寄託、1件の編入があった。									
(寄贈の内訳：金工1件、刀剣31件、考古10件、染織14件)									
金工分野で寄贈を受けた南北朝時代・正平24年(1369)の銘をもつ雲版は、在銘作品の中では2番目に古く、中世にさかのぼる貴重な優品である。刀剣分野では、平安時代・12世紀の太刀4口を含む刀剣31件の大型寄贈を受けた。古伯耆・古備前など、当館が収蔵していなかった制作地のものも含まれ、刀剣コレクションの一層の充実を図ることができた。									
・寄託の内訳：書跡2件、刀剣1件、陶磁51件、考古23件									
書跡分野では、3年度開催の特別展「最澄と天台宗のすべて」に出陳した広島・西福院の「宝篋印陀羅尼経」(重要文化財)を受託した。平安後期から鎌倉初期に書写された最古級の重要な作例である。陶磁分野では、肥前有田で生産された最上質の染付磁器を中心とするコレクション49件を受託した。陶磁史上の観点から、当館が収蔵する古伊万里作品を補完する作品群として貴重である。									
・編入の内訳：歴史資料1件									
【補足事項】									
4年度に収蔵、受託した作品については、その一部を5年度内に当館での特別展のほか、文化交流展における寄贈者顕彰室及び新収品展において公開する予定である。									
【定量的評価】	項目	4年度実績	目標値	評価		30	元	2	3
収蔵品件数		1,581件	-	-	経年変化	1,164	1,279	1,412	1,489
うち国宝		4件	-	-		4	4	4	4
うち重要文化財		46件	-	-		41	42	44	44
収集件数		92件	-	-		286	115	133	77
うち購入件数		35件	-	-		105	49	49	21
うち寄贈件数		56件	-	-		181	66	84	56
うち編入件数		1件	-	-		0	0	0	0
寄託品件数		1,400件	-	-		931	1,300	1,309	1,344
うち新規寄託品件数		77件	-	-		7	432	50	40
文化財購入費		487,406千円	-	-		907,943	461,396	584,156	231,117
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価：B		文化交流を基軸とした収蔵品、寄贈品、寄託品を分野のバランスよく受け入れた。質量ともに優れた作品を収蔵することができ、当館のコレクションの充実に参加した。以上の成果に基づき、左記の評価とした。							
【中期計画記載事項】									
1) 体系的・通史的にバランスのとれた所蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。									
2) 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。									
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価：B		中期計画に基づき、日本とアジア諸地域等との文化交流を視覚的に示す作品を収集の基軸とし、収集活動を継続的に行った。寄贈・寄託については、収蔵品の不足を補うものを中心に、慎重かつ丁寧な事前調査・検討を行った上で受贈した。4年度に収蔵・受託した作品は当館で積極的に活用できるものばかりで、「安南国清王鄭樞令旨」や「宝冠阿弥陀如来像」はコレクションの核となるものである。							




(購入) 宝冠阿弥陀如来像

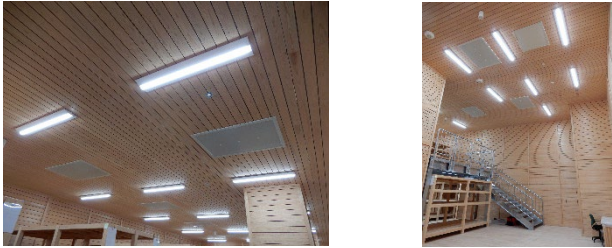
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (4館共通) ア、イ、ウ (東京国立博物館) ア～キ			
担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 村田良二 課長 沖松健次郎
【実績・成果】 (4館共通) ア 新規収蔵庫の棚、セキュリティ等の詳細を確認し、収蔵庫運用ルールを定めようとして運用を開始した。また、新規収蔵庫の空調及び扉の初期不良と、本館収蔵庫の収納棚、資料館収蔵庫並びに法隆寺宝物館の扉の劣化に伴い、改善、補修を行った。 イ 4年度は491件の寄託品について所在確認作業を行い、収蔵場所の確認・更新を行った。 ウ 収蔵品等に関し、新規にデジタル撮影した画像は、画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。あわせて、既存基本情報の修正更新を進め、一層のデータ整備を図った。 (東京国立博物館) ア 未整理・未登録であった建築8件を収蔵庫の移転作業等により、列品として編入を行った。 「橐形玉」(K-25973) について調査し、附属品の特定を行った。 九州国立博物館に長期管理換されていた作品の返却に伴い、10件の収蔵品について情報調査を行った。 浮世絵画帖に貼り込まれた36点と、松方浮世絵コレクションのうち820点の作品情報を更新し、文化財情報システムに登録した。 イ 古写真・ガラス乾板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を継続して行った。4年度は編入したものはなかったが、収蔵庫の移転作業により館史資料に相当するものもいくつか見つかり、今後の編入に向けた準備を進めた。 ウ 「protoDB: 列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム) における展示案機能を拡張し、2ヶ月以内に展示が予定されている作品の抽出を可能とした。これにより、「ColBase」や「トーハクナビ」において、展示中の作品画像をできる限り提供できるようになった。 エ 2年度から3年度にかけての収蔵品等の移転作業にともない、継続して行っている列品および伝来未詳品調査のさらなる効率化をはかるため、美術品台帳検索システムに画像のページ送り機能を追加した。 オ 収蔵する和古書・漢籍について、11,055カットのデジタル撮影を行った。 カ 4×5フィルム55件のデジタル化(うち44件は新規フィルム)を実施し、画像管理システムに登録した。 キ 本館から文化財管理棟への移動にともない変更となった収蔵品等の所在情報について、「列品管理プロトタイプデータベース」及び「収蔵品データ管理システム」の情報を更新した。また、継続して行っている列品等調査によって、伝来未詳品のうち8件を列品の一部と確認した。			
			
橐形玉		本館屋根瓦	
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 4年度は伝来未詳品として登録されてきたものの、調査の結果本館屋根瓦と特定した瓦8件について、列品に編入することができた。そのほか収蔵庫の設備の充実のための作業、収蔵品の確認作業を実施し、順調に成果をあげることができた。 データ整備については、新型コロナウイルスの影響により、撮影予算の削減と撮影単価の高騰となり、業務縮小を余儀なくされた。そのため、収蔵資料等のデジタル化件数は目標を下回ったが、protoDBの機能拡張を図るなど、利便性の向上に努めることができた。 以上によりB評価が妥当であると判断した。	
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略) 展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画の2年目として、文化財に適した環境とするため各収蔵庫の改善や、寄贈品・収蔵品・未登録品の確認・整理を引き続き行うことができた。 また、protoDBの機能拡張により、画像データの登録から公開までの作業が円滑となり、収蔵品に関する情報整備が進んだ。和古書等のデジタル撮影については、前中期目標期間の実績に届かなかったものの、外部からの利用申請には全て応えることができています。 以上により、中期計画を順調に遂行できていると判断した。5年度以降も中期計画に沿って施設設備の充実・改善を行うことや、収蔵品の確認作業、情報整備を継続して行っていく。	

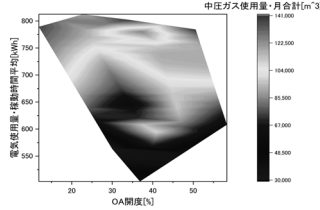

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (4館共通) ア、イ、ウ、(京都国立博物館) ア、イ			
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 羽田聡
【実績・成果】 (4館共通) ア 収蔵庫前室にピクチャーレールを敷設し、収蔵庫環境を改善した。 イ 6月と12月に実施する寄託品の継続手続きに伴い、寄託品の所在確認を行った。 ウ 6,645件(カット)収蔵品及び展覧会展示作品等の新規デジタル撮影を行った。撮影したデータのうち、4年度は10,836件収蔵品管理システムへ登録し、画像資料の充実を図った。 (京都国立博物館) ア 収蔵品写真等、既存フィルムを3,326件、デジタル化した。 イ・旧収蔵品管理システムの課題と改善点をふまえ、当該システムをリニューアルした。 ・CMS(ウェブサイト更新に利用するシステム)へ活用可能な、HTMLの自動作成機能を収蔵品管理システムに実装した。			
【補足事項】 (4館共通) ウ・展覧会出品作品の撮影は、特別展「特別展 河内長野の霊地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産—」(7月30日～9月11日)、特別展「特別展 京(みやこ)に生きる文化 茶の湯」(10月8日～12月4日)、特別展「親鸞聖人生誕850年 特別展 親鸞 生涯と名宝」(3月25日～5月21日)、特別展「東福寺」(令和5年10月7日～12月3日)を対象として進めた。 ・特集展示「新発見! 蕪村の「奥の細道図巻」」などのため、作品の撮影を行った。 ・収蔵品の撮影を行い、写真資料の充実を図った。 ・大徳寺龍光院の所蔵品調査を通して写真撮影を行い、画像データの蓄積に努めた。(処理番号1411Bア) (京都国立博物館) ア・当館職員によるフィルムのスキャニング、外部委託によるデジタル化を積極的に進め、館蔵品データベースの充実を図った。 イ・旧システムは、画像や展示計画の登録、管理に関する機能を改修によって加えており、細かな不具合が頻発していた。新システムは、旧システムで追加した機能だけではなく、題箋登録、管理の機能を導入時から実装することで、現状の業務に寄り添ったシステムにリニューアルした。			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 作品の保管環境を整備するとともに、寄託者との信頼関係継続に資するため、寄託品の所在確認を実施した。 また、収蔵品情報蓄積の基盤となる管理システムについて、旧システムの運用を通して明らかになった課題を踏まえ、改善・リニューアルができたためBと評定する。具体的には、これまで、展示ごとに作品の解説が変わる運用に対して、システムには解説を複数登録できない課題があったが、題箋情報を登録、管理する機能を実装することで解決した。これによって、展示計画の作成業務の効率向上が見込まれるだけでなく、作品に対してより多くの情報を蓄積可能になった。	
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画の2年目として、収蔵品情報の蓄積や更新等、業務の基盤となるシステムを改善・リニューアルでき、中期計画通り業務を順調に遂行できている。5年度以降は、当該システムをさらに充実・改良するべく取り組む予定である。	



婚礼衣裳 金通地日本名所文様友禅染繡振袖打掛



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (4館共通) ア、イ、ウ (奈良国立博物館) ア、イ、ウ			
担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長 吉澤 悟
【実績・成果】 (4館共通) ア 収蔵庫の適切な温湿度維持のため空調設備メンテナンス計画に基づき機器の更新に着手した。 イ 寄託者情報の更新や預証書の更新に伴い、寄託品の所在確認を行った。 ウ 収蔵品等の新規デジタル撮影を実施した(画像件数: 2,067件)。収蔵庫の適切な温湿度維持のため空調設備メンテナンス計画に基づき機器の更新を行った。 (奈良国立博物館) ア 収蔵品データベースについて、新規追加や既存情報の修正などを行い、情報の充実を図った。 イ 画像データベースの個別データを2,305件、追加登録した。 ウ 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を3,012件、実施した。			
【補足事項】 ・ 写真情報システムの利便性を向上するため、文字種・文字数の制限解除など一部機能を改善した。 ・ 写真情報システム画像利用タブ内の書式を、館内組織の実態に沿うように修正し、使いやすさ向上と効率化を図った。 (3月までに実施予定)			
		 <p>写真情報システムの作品データ 部門番号欄の文字制限の解除について</p> <p>この欄に、さらに続けて「～287」と入力しようとすると、従来のシステムではエラーになっていた。 今後もこのような入力が増えると予想されるため、文字種・漢字にシステム変更した。</p>	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品情報の整備を継続して実施し、特に館蔵品情報の大幅な追加・修正を行うことができた。 画像データの蓄積(新規撮影+フィルムデジタル化)と登録は、例年並みの件数であり、着実に実施できた。データの登録先である写真情報システムは、補足事項に記したほかにも若干の改修を実施し、使いやすさが向上した。		
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品データベースで公開されている情報を改めて見直し、適切なものに適宜、修正を行い、また公開情報を多数追加した。 新規撮影やフィルムデジタル化を通じて、収蔵品の管理に必要な画像データ整備は着実に実行できている。画像データは、展示や調査研究の業務にも活用できおり、中期計画に向けて順調に推移している。一方、データの登録先である情報システムが、当初の構築から年数を経ており、現在のデジタル環境からすると物足りない部分もあるため、将来像を見据えつつ改修を計画していく必要がある。		


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (4館共通) ア、イ、ウ、(九州国立博物館) ア、イ			
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 白井克也
【実績・成果】 (4館共通) ア 収蔵施設設備の充実、改善に向けた検討 ・ 収蔵施設設備に関して、収蔵庫内の扉の点検を実施した。閉扉が困難な扉及び開閉時に電気鍵のエラーが出る頻度の高い扉は、施工業者に依頼し、調整作業を行った。また、収蔵庫内空調機器の点検を実施した。 ・ 蛍光管の将来の生産終了を見越し、一部の収蔵庫の照明をLED照明に変更した。 ・ 収蔵庫のセキュリティの向上を図るため、監視カメラの機器点検及び防犯設備点検を実施した。 ・ 収蔵庫内の火災を防ぐため、防火設備及び消防設備点検を行った。 ・ 収蔵庫内の保管スペース確保及び作品の適切な管理を行うため、収蔵棚を増設し庫内の作品の整理・移動作業を行った。 イ 寄託品の所在確認作業 ・ 寄託品566件の所在確認作業を行い、収蔵場所の情報を更新した。 ウ 専任撮影技師による4,361件(カット)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 (九州国立博物館) ア 文化財情報システムの運用を継続し、488件の文化財データを新規登録し、8,301件を更新した。 イ 文化財情報を管理する業務システムを点検し、入力規則のチェック機能の強化、画面表示や出力帳票の最適化等の改善を実施した。修理履歴データベースにおいては、修理文化財の一覧表を年度単位で出力する機能を実装し、修理報告書の作成作業を効率化した。			
【補足事項】			
		LED照明に変更した収蔵庫の様子	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、収蔵庫の点検を実施し、収蔵庫内の扉や照明などに対し、必要に応じた整備や修理及び調整を行った。また、寄託品の所在確認を継続して実施した。 収蔵品等のデータの登録・更新を継続し、正しい情報を参照できる状態を維持した。また、業務システムを改善し、登録データの精度向上及び利活用を推進し、各業務の負担軽減と効率化に寄与した。		
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵庫内の点検及び環境改善を引き続き実施した。また、作品の整理・移動作業により、作品の適切な管理並びに保管スペースの確保に努めた。3年度に引き続き、資料登録情報の更新を行い、展示や修理情報の蓄積・活用を継続し、中期計画を順調に遂行した。		



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-2) (4館共通) ア、イ、ウ (東京国立博物館) ア、イ、ウ			
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 和田浩
【実績・成果】 (4館共通) ア 収蔵庫等11ヵ所を対象に生物生息調査の実施及び、全館的に害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。また、生物生息調査結果等から改善を要すると判断した修理室5ヵ所に対して除塵防黴清掃を実施、収蔵庫6ヵ所に対して昆虫類侵入遮断対策を実施した。 イ 収蔵品を中心とした貸与に伴い、保存カルテを457件作成した。 ウ 収蔵庫及び展示室295ヵ所の温湿度を計測し、それらの解析から、収蔵環境の特性評価を行った。収蔵庫及び展示室の温湿度、空気汚染物質に関する年次報告を整備した。展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響を検証した。			
			
		電気使用量に関する解析	トラップに捕獲された害虫
(東京国立博物館) ア 文化財の収納に用いられる綿の落下衝撃吸収特性について実験を行い、使用方法について検証した。 イ 6ヵ所の収蔵庫、修理室に対して各3種の空気汚染物質濃度を計測し、データの解析・蓄積を行った。 ウ ハンドリフトを用いた博物館施設内輸送で生じる振動を計測した結果を解析し、施設内輸送工程の最適化について検証した。			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 予算の不足から地震対策に関する検証実験等を実施できず、関連する実績がやや不足したもの、館内保存環境の現状把握のために実施した生物生息調査によって発見された問題を除塵防黴清掃によって改善した等、調査と対処を一体化した活動を展開できた。		
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財輸送環境の保全については、博物館の日常業務として高い頻度で発生する施設内輸送に際して、走行経路の選定、輸送機関上の振動計測から輸送作業工程の評価に至るまで一貫した調査研究を実施することができた。 温湿度計測および生物生息調査の結果から館内各所の環境的評価に基づいた対策を講じることができた。5年度からは、博物館施設全体の環境的評価をリアルタイムで可視化し、実施すべき対応と直結できるようなシステムを構築し、業務効率化を目指したい。 また、博物館として対策を要する災害は地震だけではないため、5年度からは、可能性の高い災害全般を視野に入れた調査研究へと発展させる必要がある。 以上の観点から、中期計画2年目として、順調に事業を進めるとともに、5年度以降をも見据えた課題を設定することができた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存		
【年度計画】			
・ I-1-(1)-②-2) (4館共通) ア、イ、ウ (京都国立博物館) ア、イ、ウ			
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 羽田聡 保存科学室長 降幡順子
【実績・成果】			
(4館共通)			
ア 館内外の保存科学担当者をはじめとする関係者との連携を強化し、IPMの徹底を図った。			
イ 収蔵品の保存カルテを123件作成した。			
ウ 平成知新館及び明治古都館、収蔵庫等の保存環境に関わる情報収集及びデータ解析を行った。			
(京都国立博物館)			
ア 平成知新館の地震対策、空気質調査、温湿度調査及び歩行性昆虫類生息調査を継続的に実施した。複数年にわたる計画的事業として、展示室のIPM清掃・展示ケースガラス清掃を一部の展示室で実施した。毎月実施している空調装置に関する打ち合わせで、設定値と得られたデータを解析し、温湿度が一定になるよう微調整を行い、より詳細な解析に向けてデータ収集を継続した。			
イ 明治古都館(本館)については、改修を見据えて、展示室内環境を良好に維持するために必要となる温湿度調査及び歩行性昆虫類生息調査を通年で実施し、データの蓄積を行った。			
ウ 東収蔵庫は、3年度から運用を開始したモニタリングシステムが順調に稼働しており、温湿度データの蓄積が図れた。一方専用LANが使用できない北倉・資料棟・文化財保存修理所エリアでは、定期的に温湿度に関するデータ収集を行い、速やかに修理者協議会等との打ち合わせ時に周知し、保管環境等の意識向上と連携強化を図った。また、通年で展示室及び各収蔵庫の歩行性昆虫類の生息調査、定期的な空気質調査を実施し、データの蓄積を図った。			
【補足事項】			
			
展示室内の清掃 (IPM)		収蔵庫の空気質調査	
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定：B	<p>収蔵品の保存状態の確認と情報共有を目的として、館外への貸与に伴い保存カルテの作成・蓄積を継続的に図っており、4年度は123件作成できた。</p> <p>文化財にとって適切な展示・保存環境を保持するべく、継続的にモニタリングを実施し、データを蓄積した。温湿度については、通年モニタリングにより得られたデータの解析結果を踏まえて、より適切な展示・保存環境の構築に向けて、建物毎の対応策を検討した。また、歩行性昆虫類に関するモニタリング調査で問題が判明した箇所については、担当者間で連絡を密に取り合い、IPMの徹底を図った。明治古都館についても、各種イベントの会場としての利用後に、徹底したIPMを実施し、活用を図りつつも文化財の保存に努めた。以上の成果から、Bと評価する。</p>		
【中期計画記載事項】			
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定：B	<p>包括的な文化財保存環境の管理体制を構築するべく、展示室や各収蔵施設で一体的な温湿度環境モニタリング、歩行性昆虫類生息調査、二酸化炭素濃度測定、空気質調査等を通年で実施しており、各施設の施設整備関連部署とも緊密に連携できているため、Bと評価する。今後も継続的にモニタリング活動を進めるとともに、他館との情報交換などを通して、より適切な環境保持に向けての調査研究を進めたい。</p>		

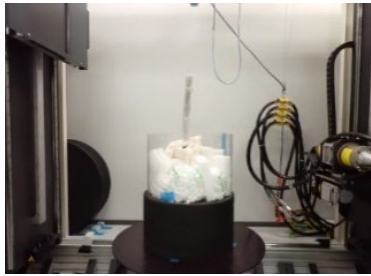
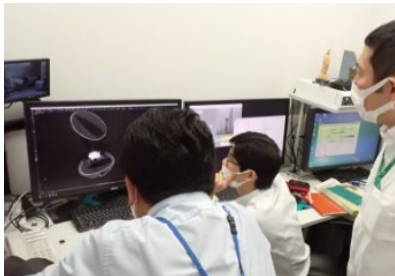
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 (2) 有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存		
【年度計画】			
・ I-1-(1)-②-2) (4館共通) ア、イ、ウ (奈良国立博物館) ア			
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 荒木臣紀
【実績・成果】			
(4館共通)			
ア 調湿装置や調湿剤を用いて展示ケース内湿度の安定化処置を行い、無線式温湿度データロガーなどでそれらの効果について24時間のモニタリングを実施した。展覧会終了後にデータをまとめて学芸部で回覧した。			
イ 国内の博物館や寺社から貸出の依頼があった場合は作品が展示される展示室や展示ケース、運用体制などの情報を共有して作品の展示環境を適切に整えることに努めた。			
ウ 館内の文化財害虫の生息状況を把握するために、展示室、収蔵庫、調査室やその他バックヤードに昆虫調査用トラップを設置し、2ヶ月に1回の頻度で学芸研究員が輪番で作業を行った。トラップを専門業者に送って得た情報を蓄積し分析を行い、館内のIPM活動における指針として清掃を行うなど、生物被害の低減に努めた。(奈良国立博物館)			
ア 宮内庁正倉院事務所と協力して正倉院展における温湿度データの取得方法を検討し、期間中は3日に1度の間隔でデータを回収、グラフ化を行なって両者で確認しながら展覧会を進めた。また、展覧会終了後には塵埃調査を含めた環境情報を整えて展示環境の総括を行った。			
【補足事項】			
(4館共通)			
・ 学芸部研究員と総務課環境整備係員が集まり「環境整備ワーキング・グループ」を月1回開催し、測定データ、専門業者からの調査報告書を共有して展示室、収蔵庫に潜んでいた諸問題についての改善案を協議し、一部については改善を行った。			
(1) 展示室内温湿度測定箇所：104箇所			
(2) 展示ケース、展示室内塵埃調査箇所：25箇所			
(3) 文化財害虫生息状況調査：100箇所			
			
各種温湿度データロガー校正の様子		調湿剤、無線式温湿度データロガーの設置作業	
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定：B	4年度は、継続した調査の実施に加え、3年度より温湿度の測定箇所を増やし、より詳細なデータ蓄積を行った。また、得られたデータを幅広い職員層で共有し、保存修理指導室だけでなく、館全体で環境の整備、改善を行うなど、データを環境整備におけるインフラクチャーとして活用しており、年度計画を着実に実行することができた。		
【中期計画記載事項】			
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定：B	4年度も温湿度データ、生物生息データなど年間を通じて取得、蓄積を行うことができ、順調に中期計画を遂行できている。今後は温湿度データの所得地域を広げ、新たに得られたデータを元に更に安定した展示環境を整えると共に、カーボン・ニュートラルに向けた展示収蔵環境の改善に努める。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存		
【年度計画】			
・ I-1-(1)-②-2) (4館共通) ア、イ、ウ、(九州国立博物館) ア			
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 木川りか
【実績・成果】			
(4館共通)			
ア IPMの考え方に基づき、館内各エリアの温湿度管理、粘着トラップによるモニタリング及び清掃を徹底し、必要に応じて有害生物処理17件を実施した。			
イ 所蔵品の保存カルテ86件を作成した。			
ウ 文化財の展示・保存環境における温湿度や揮発性有機化合物濃度に関するデータを蓄積し、より良い展示・保存環境を作り出すための各種手法を検討した。			
(九州国立博物館)			
ア 展示室、収蔵庫等の温湿度データを連続計測し、蓄積したデータを活用し展示・収蔵環境の保全に努めた。また、粘着トラップを館内全域に設置し毎月交換・観察することで、昆虫の侵入、棲息状況を把握し文化財害虫に対して早期に対処することができた。また、館内に搬入される文化財及び資材の生物処理を行うことで、収蔵品等への生物被害を未然に防ぐことができた。			
【補足事項】			
(九州国立博物館)			
ア			
<ul style="list-style-type: none"> ・展示・収蔵空間等にデータロガーを設置し、測定結果をモニタリングすることで、作品の材質に合わせた適切な温湿度環境を維持した。 ・館内全域に設置した粘着トラップの定期的な観察・交換による捕獲虫モニタリングと、各エリアにつき年2回程度の徹底清掃を実施し、害虫の発生要因を低減した。また、館内職員・事業者向けにIPM研修を開催し、対策の重要性を周知した。 ・文化財害虫を館内に持ち込まないために、搬入される文化財及び資材に対し、低酸素濃度処理、二酸化炭素処理、低温処理等の、化学薬剤を使用しない生物処理を実施した。 ・文化財の移動導線周辺のメンテナンスや粘着トラップの観察及び展示室やエントランスなどの一般来館者エリアの粘着トラップ交換等は、地元NPO法人や環境ボランティアの協力を得て館内の環境保全に努めた。 			
			
			低温による生物処理の様子
			
			地元 NPO 法人による 館内徹底メンテナンスの様子
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定：B	館内の温湿度、捕獲虫、空気質等の保存環境に課するデータを連続的・継続的に蓄積し、得られたデータに基づき適切な環境管理を行った。また、地元NPO法人やボランティアと連携したIPM活動の体制を維持し、適切な館内環境を維持した。以上、所期の目標を遂行し、B評価とした。		
【中期計画記載事項】			
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定：B	展示・保存環境に関わるデータ収集を継続し、文化財の適切な環境を維持することができた。また、得られたデータを館内で共有し、より適切な環境維持に向けた対策を実施し、空気質や生物による文化財被害を未然に防止した。中期計画の実現に向けて円滑に遂行し、B評価とした。		


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 (2) 有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2 科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】	<ul style="list-style-type: none"> ・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア、イ、(東京国立博物館) ア ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア、(東京国立博物館) ア 							
担当部課	学芸研究部保存修復課			事業責任者	課長 和田浩			
【実績・成果】	<p>I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア 保存修復課の修理技術者を中心に、館内で館藏品、寄託品の本格修理の応急修理を行った。必要に応じたX線CTの活用により作品の状態や処置が必要な箇所を把握しつつ、作品の劣化予防のために392件の応急修理に着手し、94件の本格修理を実施した。</p> <p>イ データベース構築のために、3年度に修理が完了した24件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書23』を刊行した。当該修理報告書は4年度から紙媒体から電子書籍へと移行し、より多くの国内外に発信した。 (東京国立博物館)</p> <p>ア 中長期的計画策定のため、国宝・重要文化財43件を含む70件の作品を新たに鑑査会議を経た本格修理候補作品としてリスト化し、重要文化財41件を含む65件の本格修理を実施した。</p> <p>I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア 館藏品修理の際に、X線CTスキャナやハンドヘルド蛍光X線分析装置などで科学分析調査を行うことで、彩色材料や材質、劣化状況についての情報が得られ、修理方針策定に役立てた。 (東京国立博物館)</p> <p>ア X線CTスキャナやハンドヘルド蛍光X線分析装置を用いて、「泰西騎士像」(江戸時代・17世紀)の彩色材料や「沃懸地鳳凰蒔絵小脇指」(江戸時代・19世紀)の劣化状態を調査し、適切な修理に役立てた。</p>							
	 <p style="text-align: center;">蛍光X線分析の様子</p>							
【補足事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重要文化財「小袖 白綾地秋草模様(冬木小袖)」(絹製、尾形光琳筆、江戸時代・18世紀)は文化財活用センター文化財修理ファンドレイジング事業からの寄付金により修理を実施した(3年1月着工、工期27か月)。重要文化財「臨時全国宝物調査関係資料」のうち宝物目録類(QA-3623, QA-3624)の一部について文化財保存活用基金による本格修理に着手した。 							
【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
修理件数(本格修理)	94件	-	-		26	24	44	53
修理のデータベース化件数	24件	-	-		98	19	13	16
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 緊急性の高い応急修理、長期計画立案のための事前調査と中期計画達成のための調査、会議上程を行い、具体的な修理候補リストを策定し、修理を実施した。新型コロナウイルスの感染拡大により自己収入による修理費が低迷する一方で、寄附金や基金、文化財活用センター貸与促進事業費による修理が増えており、修理件数は安定している。以上の実績から、所期の計画を遂行できたと評価した。</p>							
【中期計画記載事項】	<p>修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究者と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。</p>							
【中期計画に対する評価】 評定：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 中期計画の2年目として、事前調査、応急修理、本格修理の各段階で保存科学と修理技術が連携して保存修理事業にあたり、博物館活動に対して最適な作品修理を行うことができた。引き続き常駐する修理技術者を増員し、文化財の安全な活用を担保できる環境を整えたい。</p>							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 (2) 有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2 科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】 (京都国立博物館) ・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア、イ、(京都国立博物館) ア ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア、(京都国立博物館) ア、イ								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 羽田聡 保存修理指導室長 大原嘉豊 保存科学室長 降幡順子					
【実績・成果】 I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア ・ 館蔵品中、緊急性の高い、絵画3件、彫刻1件、金工3件の本格修理及び応急修理を行った。特に懸案であった「紙本墨画布袋図(善阿印) A甲673、附 紙本墨画布袋図 探幽筆」の本格修理をすることができた。 ・ 「重要文化財 芦雁図 伝宗湛・宗継筆」をはじめとする旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵の4か年計画の3年目の修理を継続して行った。 イ 4年度は160件の新規修理文化財搬入があり、修理情報のデータベース化を進めるとともに、過去のデータに関して1179回追加、更新を行った。 (京都国立博物館) ア 中長期修理計画に基づき、館蔵品の修理を予定通り実施する事ができた。 I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア ・ 保存修理所創設以来の非電子化修理報告のPDF化を進め、4年度は265件の修理記録のPDF化を行った。 ・ 4年度、所蔵者の協力を得て文化財修理所内工房で実施した科学分析調査は、作品の材質調査としては蛍光X線分析調査12件、X線回折調査4件、分光分析調査2件、オルソ撮影1件である。作品の構造調査としては、I.Pを用いたX線透過撮影4件、X線CT撮像1件、ファイバースコープ調査1件、SfM/MVSによる3次元形状調査1件を実施した。 (京都国立博物館) ア 構造調査では、一例として、彫刻作品に対してX線CTを使用し、表面の金箔・真鍮箔の塗膜構造、使用範囲の解明、修理の先後関係の確認など、解体時の適切な作業に関する情報を取得し、それを提供することができた。 イ 非破壊的な材料調査では、主として各工房からの依頼により、絵画資料の染料・顔料調査を実施し、彩色材料データの蓄積を図った。X線を使用した顔料調査では、絹本の作品について、表・裏彩色ともに調査を依頼される事例が増えてきており、可視光・赤外線を使用した染料調査も実施した。また、4年度より新たに導入したX線回折装置で彩色材料調査を実施し、修理方法決定の指針策定に貢献できた。								
【補足事項】								
								
所蔵者・修理技術者と分析結果の情報共有を行う				絵画資料の顔料調査				
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評価	経年 変化	30	元	2	3
修理件数(本格修理)	7件	-	-		17	12	12	9
修理のデータベース化件数	160件	-	-		149	171	137	124
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 例年同様、文化財修理所各工房からの修理前・後の科学的調査の依頼を受け入れ、内部構造調査や使用材料等の調査を行った。特に、彩色材料の調査では、中期計画策定時には予定していなかったX線回折分析装置を導入し、分析事例の蓄積を効果的に進め、その成果を学会でいち早く発表もできているため、Aと評価する。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究所と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 従来実施してきたX線CT撮影、X線透過撮影、蛍光X線分析、分光分析に加え、X線回折分析装置を新たに導入し、分析手法の多様化を図った。この装置は、中期計画策定時には導入を予定していなかったが、その重要性に鑑み特に導入したもので、早速修理方針の策定に貢献できたため、Aと評価する。今後も継続的に調査を進め、修理技術者とのデータ・知識の共有を図るとともに、成果の発信に努める。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2 科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】									
・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア、イ、(奈良国立博物館) ア、イ、ウ ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア、(奈良国立博物館) ア、イ									
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 荒木臣紀						
【実績・成果】									
I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア 2年度からの継続事業である『絹本着色十二天像』の修理を予定通り実施した。 イ 『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第5号を刊行した。また、修理報告資料を整理しデータベース化に努めた。 (奈良国立博物館) ア 館蔵品本格修6件のうち、新規5件の修理を行った。内訳 絵画3件、彫刻1件、考古1件、書跡1件。 イ 4年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、館蔵品修理を計画通りに実施した。 ウ 寄託所蔵者と協議を行い、寄託品1件について当館の推薦による財団助成と寄付金を受けて修理を実施した。									
I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア 『絹本着色十二天像』の修理中における裏彩色の蛍光X線分析を行い、用いられている顔料から修理方針の検討を行った。 (奈良国立博物館) ア サンプリングした木片を京都大学生存圏研究所材鑑調査室に依頼して修理作品の樹種の同定を行った。 イ 文化財修理所で修理を行っている大型木造彫刻のX線撮影を行い体幹部分の構造の調査を行った。また、修理前の作品頭部のX線CT撮影調査を行って、眼の部分に用いられている技法と現状を調査して修理方針の決定に寄与した。									
【補足事項】									
I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア 収蔵品の修理を目的とした募金箱を、従来の設置場所だけでなく特集展示「新たに修理された文化財」の期間中展示会場にも設置し、周知を図った。 イ 彫刻の材質調査や銘文集成のほか、修理概要13件を掲載して、修理実績や内容を修理報告書で広く伝えることができた。 (奈良国立博物館) ウ 寄託品修理として、新規に海住山寺蔵『木造彩色宝珠台』を住友財団の助成のもと着工した。募金により金剛山寺の『和州矢田山地蔵菩薩毎月日記』の修理を行った。また、文化財保存活用基金により、館蔵品の重要文化財『絹本着色十二天像』の修理を進めた。									
【定量的評価】項目		4年度実績	目標値	評価	経年 変化	30	元	2	3
修理件数(本格修理)		6件	—	—		6	8	7	7
修理のデータベース化件数		53件	—	—		63	74	70	51
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 新たに修理を行った作品の特集展示を開催し、社会に向けた修理事業の周知を図った。また、所蔵品をはじめとした修理案件について、科学的調査を用いて修理を進めたほか、新規事業による修理にも着工することができ、将来の展覧会等を考慮して作成した修理計画に沿って事業を実施することができた。さらに、本格修理及びデータベース化の件数も例年通りに進められており、年度計画を着実に実行できたと考えB評価とした。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学的研究員と機構内外の修理技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備を更新し充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 4年度も財団助成や寄附金、募金等を活用し、緊急性の高いものから順次修理を実施することができた。また、当館保存修理指導室員と文化財保存修理所の修理技術者が連携してX線CTやX線透過撮影、蛍光X線分析調査を行い、さらにその結果を修理に適切な基礎資料として蓄積できたことから、中期計画を順調に遂行できていると判断する。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 (2) 有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2 科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】								
・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア、イ、(九州国立博物館)ア ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア、(九州国立博物館)ア								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 木川りか					
【実績・成果】								
・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア 館藏品を中心に損傷状況や展示計画等を勘察し、優先順位の高い文化財20件について本格修理を実施した。また、損傷が軽微な文化財6件について応急修理を実施した。 イ 将来のデータベース化を視野に入れ、未整理であった25～27年度分の修理報告書を刊行した。 (九州国立博物館) ア 毎年度継続的に修理を行っている重要文化財「対馬宗家関係資料」については、5件の本格修理を実施した。 ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア 重要文化財「対馬宗家関係資料」等の紙を素材とする文化財9件の本格修理に伴い、本紙剥落片を利用して紙質調査を行い、補修紙作成に役立て、作品の新たな学術情報として記録した。 (九州国立博物館) ア 革包黒漆塗打刀拵(刀(銘藤原鎮清)の付属品)のX線CTによる構造調査など7件の科学調査を行い、修理方針の策定等に役立てた。								
								
革包黒漆塗打刀拵のX線CT調査								
【補足事項】								
・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア・館費による修理件数は26件(本格20件、応急6件) 内訳：絵画6件(本格3件、応急3件)、書跡1件(本格1件)、彫刻1件(応急1件)、刀剣1件(本格1件)、陶磁1件(本格1件)、漆工2件(応急2件)、染織1件(本格1件)、考古6件(本格6件)、民族資料2件(本格2件)、歴史資料5件(本格5件)。								
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評価	経年変化	30	元	2	3
修理件数(本格修理)	20件	-	-		40	31	20	17
修理のデータベース化件数	-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 本格修理は、1件あたりの構成点数が多く、総事業費にこれまでと大きな変化はない。作品の状態に合わせた本格修理や応急修理を適切に行い、年度計画を遂行したため、B評価とした。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究所と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 伝統的な修理技術に新たな科学調査の成果を取り入れながら、緊急性の高い作品から順次計画的かつ正確に修理を実施した。中期計画を円滑に遂行し、着実に課題解決に取り組んでおりB評価とした。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-4) (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館)ア、イ			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 阿部勝 保存修理指導室長 大原嘉豊
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所の整備・充実のため、定期的に工房との修理者協議会を開催（年7回）し、意見交換を行った。 イ ・ 文化財保存修理所運営委員会を開催し、修理所の運営について審議した。 ・ 各所老朽化した設備の整備（自動ドアの電気錠の修繕、旧管理棟3階バルコニーの防水改修工事、消防ポンプ配管、燻蒸庫排気ファン）を行った。 ・ 電気設備の法定点検により確認された修理所3Fの微小な漏電について、既存の床下埋込配線から新たな天井裏配線へ更新することにより解消した。 ・ 防災体制の充実を図るため、文化財保存修理所での防災訓練を実施の予定であったが、雨天のため中止となった。			
			
旧管理棟防水改修（前後）		旧管理棟防水改修（前後）	
【補足事項】 ア 文化財保存修理所運営委員会は、2年振りに対面形式で行った。			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度は新型コロナウイルス対策を実施のうえで、文化財保存修理所運営委員会を2年振りに対面形式にて開催した。委員から未指定文化財の受入手続きについて意見を頂戴し、運営委員会後の受入については、年2回、運営委員会会長による書面審議を経て判断することとなった。修理者協議会は予定通り開催し、環境整備等について意見交換を行った。老朽設備の改善等、適切な運用を行うことができた。		
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 豪雨時の雨漏り、電気設備等の老朽化は課題として依然あるものの、迅速かつ適切な対策を取ることによって、指定品を中心とした修理事業を安全に行う施設としての役割を果たすことができた。また、老朽化した各所設備の整備を行うなど、設備環境の改善を実施した。中期計画の2年目として、減災に向けた方策を講じ、工房と協力しながら文化財保存修理所の円滑な運営を進めることができた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-4) (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア、イ			
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 荒木臣紀
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所の窓ガラス面に紫外線カットフィルムを貼り付けた。大型ブラインドについては改修を5年度に予算化した。 イ ・ 文化財保存修理所運営委員会を5年3月10日に実施した。また、各工房における修理事業の実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境の改善に関する課題などについて、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の3工房代表者と当館学芸部で討議する文化財保存修理所協議会を2回開催した(9月12日、5年2月16日)。 ・ 館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を4回実施した。			
【補足事項】 ・ 5年2月21日から3月20日まで、当館西新館第1室において特集展示「新たに修理された文化財」を開催した。3年度に文化財保存修理所各工房で修理が完了した8件の当館収蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示することで、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。 ・ 文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、修理所一般公開、寄付者へ修理に関する解説を行った際などに配布した。 ・ 5年1月12日に文化財保存修理所特別公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。新型コロナウイルス感染防止のため、参加者を20名にして同日に3回実施し、報道機関を含む69名の参加があった。			
			
令和4年度 文化財保存修理所特別公開			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 運営委員会を5年3月10日に対面で行い、所内3工房代表者とは9月12日、5年2月16日に協議会を開催し、修理の実施状況の確認及び作業環境、保存環境の改善について協議するなど、情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。また、文化財防災センターと連携して、文化財被災時への助言について修理技術者と意見交換を行った。については年度計画を着実に実行できている。		
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所を円滑に運用するとともに、X線撮影、蛍光X線分析、ファイバースコープやX線CTなどの科学技術を積極的に活用した保存修理を実施することができた。新型コロナウイルスのため、引き続き人数制限をした上での一般公開が続いたが、修理所への理解を深める機会の提供は3年度より継続してできている、中期計画は順調に遂行している。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修復施設等の運営		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-4) (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア、イ			
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 木川りか
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア ・文化財保存修復施設1(装演)について、紙等のフラットニングに用いるプレス機の油圧ジャッキ及び紙料攪拌用の機器の部品に経年の歪みや破損が生じたため、新調及び部品の修理を行った。 ・文化財保存修復施設4(彫刻等大型文化財)について、漆工分野の修理を安全に行えるよう、新たに完全遮光カーテンを取り付けた。 ・文化財保存修復施設等の排水槽の経年劣化に対応するため、防水塗装の改修工事を行った。 イ ・当館文化財保存修復施設にて当館経費による修理23件及び所有者等負担による修理40件、合計63件の修理事業を実施した。その他、館外で当館経費による3件の修理事業を実施した。			
			
カーテンの取り付け工事 (修復施設4)		排水槽の改修 (修復施設等)	
【補足事項】 ア 文化財保存修復施設4は、本来彫刻等の大型文化財のために整備したが当館では事業が少なく、彫刻修理技術者の常駐が困難な状態が続いた。このため、4年度は漆工分野の大型文化財の修理に活用すべく、紫外線による作品の劣化を防止するための完全遮光カーテンを取り付けた。これにより太陽光を遮断し、作品の保管や修理作業をより安全に進めることができた。 イ ・感染防止を図るため、時差を設けた出勤及び休憩、分散勤務など、新型コロナウイルス対策の指針を遵守しながら効率的、計画的に修理を実施した。 ・文化財保存修復施設で修理した文化財63件中52件、8割以上が九州山口地区所在の文化財であり、九州山口地区における文化財修理の拠点として確実に実績を蓄積した。修理文化財の中には、熊本県の球磨川水害による被災文化財を含む。			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス対策の指針を遵守しながら文化財保存修復施設を積極的に活用し、文化財の保存修理を適切に進めた。九州山口地区における拠点として、確実に成果を上げている。この評価に基づき、B評定とした。	
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画を円滑に推進しているが、開館より17年がたち、修理に用いる道具類の部品の生産終了や経年劣化のため、抜本的な修理やメンテナンスが課題となっている。今後も館内で道具や設備類の必要性を共有しつつ内外の関係者と古い道具類の修理活用方法を探るなど、必要な環境整備を継続的かつ計画的に行い、文化財を安全、適切に修理できる設備を維持しつつ中期計画の実現に向けて推進する。	